９・９今こそ戦争責任を問う ―― 内海愛子さん講演会の御報告

９月９日の内海さんの講演会には、国労大阪会館の会場にあふれる参加者となりました。

早稲田大学平和研究所将兵研究員である内海愛子さんの講演、「戦後責任 ―― 泰緬鉄道の現場から考える」 は期待した通り、参加者の皆さんにわかりやすい内容で、しかも大阪の市民にとっては、東南アジアにおける日本軍の侵略戦争とその裁判は目新しい歴史事実の講演でした。

（写真）講演する内海愛子さん

日本が受諾した「ポツダム宣言」は日本の戦争犯罪を厳しく裁くと明記。
東久邇宮稔彦首相は議会で「軍官民、国民全体が徹底的に反省し懺悔しなければならない」と演説、 「自主裁判」も閣議決定、 議会は「戦争責任に関する決議」を採択。
だが、戦争犯罪の追及は、連合国が実施（極東国際軍事裁判・BC 級戦犯裁判）。BC 級裁判では日本人・朝鮮人・台湾人も裁かれました。
戦争裁判 ―― 誰が誰を裁いたのか。 裁かれた戦争犯罪とは ――。
「死の鉄路」といわれる泰緬鉄道の現場から考える内容でした。
最後に内海さんは、「皆さん、戦争責任を果たせていないアジアへも関心を広げてください。」と言われたのが胸に刺さりました。

また朝鮮出身の軍属であった李鶴来さんは、泰緬鐵道の監視員となり、捕虜虐待の罪で死刑

を受けました。　のち減刑されますが、「日本人として命じられ罪を負い、戦後は国籍をはく奪され恩給も賠償もありませんでした。」
その伯父さんから受けた数々の思いを姜秀一さんが、語られました。

150 人収容の会場が満杯以上になり、私たちは椅子をさらに追加しました。
会場からの質問用紙も数十枚を数え、答えられる内海さんは講演で話したりなかった分をくわしく説明されて頂きました。
熱気に満ちた充実した集会だったと主催者の私たちも参加者のみなさんも同様に感じました。

※参加された銘心会南京の方がメールと感想を書いてくださいました。
うれしかったので、皆さんと共有したいと思います。読んでください。

【２０２３．９．９内海さん講演会の感想】
　日本軍人の過酷な実態が語られることの多い東南アジアでの戦争。　植民地支配という視点で、加害の事実を明らかにし、戦争責任を問う内海さんのお話は、日本の加害責任を考えるうえで、貴重な視点を与えていただきました。　李鶴来さんの静かな語り口を通して、語られる映像は、朝鮮人戦犯への不条理、戦い、日本人医師とのつながり、日本国民への温かいまなざしなど、感動的なドキュメンタリーでした。
仕事をしながらの講演会準備、本当にお疲れさまでした。　さすがです。
松岡さん（皆さんの）のパワー、人柄、生き方とそれらに共鳴する支持層のなんと盤石な事か。　あのテーマの講演会に席が足りなくなるほどの人が押しかけるとは、本当に素晴らしいです。　揺るぎない取り組みの成果ですね。

（写真）マイクをとる松岡 環・銘心会代表

最後の 12 月の映画会の松岡さんの話、よかったですよ。 こちらもさすがです。 ある程度内容を知っている私たちでさえ、ああ 行きたいなと思わせました。　（滋賀県Ｎさん）

【銘心会南京代表・松岡 環】